

大志連区の

第5回 大志の歴史文化教室：
親子で大志の歴史と文化を知ろう・・・

とうかさい

けんぼ

みこし

桃花祭 献馬・神輿の

5年間のあゆみ



桃花祭



昔：石山町の飾り馬具 今：大志歴文会・子ども会の献馬



2018/8/7 (火)

大志連区の歴史と文化を知る会
大志子ども会

木村 富雄 高橋美佐喜 平光 政見 石原 亘

真清田神社 桃花祭 とは

桃の節句にちなんだ厄*払い(やくばらい)の祭り。 *:病気、災害
江戸時代までは桃の節句3月3日に行われ
明治43年(1910年)から太陽暦の4月3日となる。

- 昔は
- 別名「馬まつり」とも称され、明治・大正・昭和の中期までは、百数十頭の馬が出ていた。
 - 写真に残る馬具は64で、内 19が大志連区の馬具
「桃花祭と飾り馬具」松本勝二著より

- 今は
- 平成30年の献馬は6頭、うち4頭は大志連区から
 - 太平洋戦争で焼け残った大志連区の2つの馬具
石山町の 金毛九尾狐(きんもうきゅうびきつね)
朝日町の 神武天皇(じんむてんのう) は
宝物館に収蔵されている。

写真に残る大志連区の飾り馬具



- ①中町の鯨 ②葵町の東照宮 ③人形町の御祓 ④伝馬町の雷神
 ⑤宮町の加藤清正 ⑥石野町の御祓 ⑦城崎町の御祓 ⑧須ヶ崎の孔雀
 ⑨明治町の千成瓢 ⑩下馬町の海老 ⑪仲之町の錨 ⑫七間町の福縁仙人
 ⑬朝日町の神武天皇 ⑭日の出町の御祓 ⑮東四ツ谷の大矢二手四本
 ⑯東四ツ谷の鎮西八郎 ⑰西四ツ谷の日本武尊 ⑱公園通上ノ切の鏡に雲
 ⑲石山町金毛九尾狐 出典：真清田神社、「桃花祭と飾り馬具」(松本著)

焼け残った馬具 (真清田神社宝物館)

①石山町の
金毛九尾狐
(きんもう
きゅうび
きつね)

天保10年(1839
年、179年前)
に30両かけて
調整：今のお金
で120万円かけ
た



105石山町-金毛九尾狐



9本のしっぽ

千年も生きると
言われる狐(きつね)

するどい目



②朝日町
(現本町通8)の
神武天皇

(じんむてんのう)

明治33年(1900年：118
年前)に600円で
調整：今のお金で270万円
かけた)



初代の天皇と金の鷲(とび)

平成26年から始まった

献馬(けんば)・神輿(みこし)にとまって
桃花祭(とうかさい)を楽しもう！ の

5年間のあゆみ

・各町内から連区全体へ
・大人から子どもへ



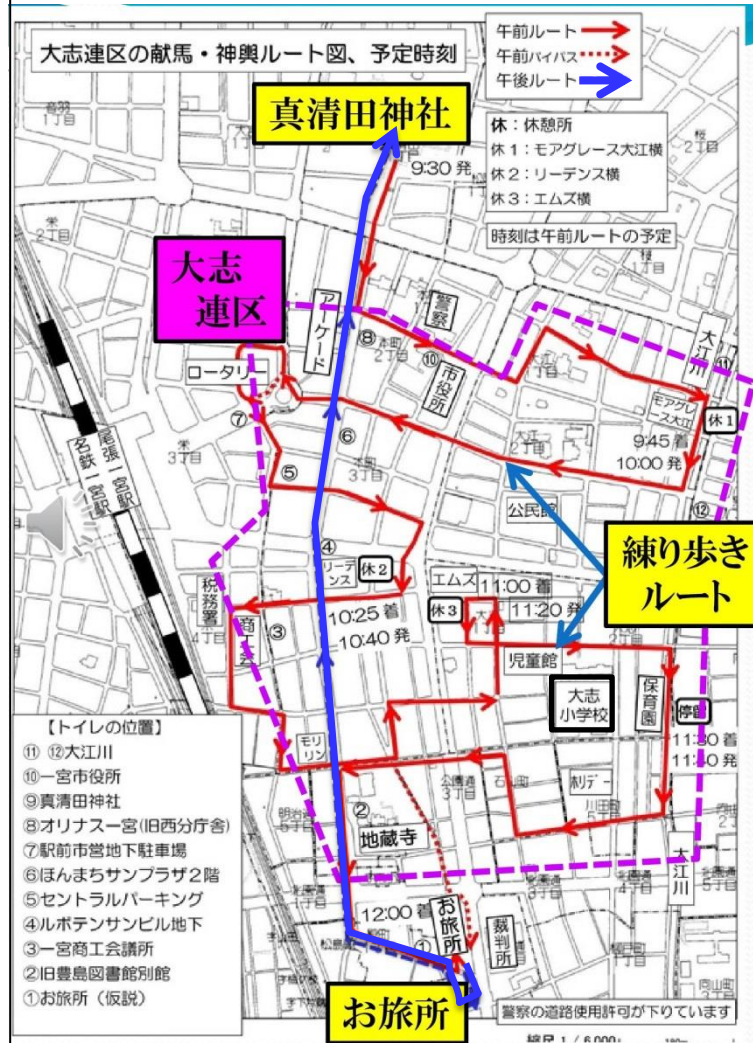
より楽しくより安全により多くの人が
参加できる行事に

⇒今後 10年、20年続く大志連区の伝統行事に
していきたい

平成29年
のビデオ 8分30秒

170521大志連区2017
桃花祭献馬編集-H-C-
完成版.mp4

2018/8/7



平成30年4月3日の献馬・神輿のルート

- ・午前：新中学1年生が連区の全町内を
献馬で回りお祝いしてもらう 約80名
- ・午後：小学生を中心に献馬・神輿に
とまり神幸行列に参加 約400名

・各町内から連区全体へ

平成25年まで：各町内(本町2、本町3、石山町)個別で桃花祭を祝う

平成26～30年：各町内会十大志歴文会十大志子ども会で
連区民が一緒になって 桃花祭を祝う 形が出来てきた。

具体的には

- ・ 献馬、神輿は本町2、本町3、石山町、歴文会から奉納

子ども達の似顔絵で飾る献馬



本町2 金鯉

2018/8/7



本町3 宝船



石山町 神輿






























歴文会：
大志連区1



歴文会：
大志連区2

平成26～30年 献馬・神輿の数と参加人数

	歴文会	献馬			参加人数	神輿	天気
	行事	本町2	本町3	大志歴文会		石山町	
平成25年	—			—	100		晴
平成26年	第1回				300		晴
平成27年	第2回				300		雨
平成28年 日曜日	第3回			  	530		晴
平成29年	第4回			 	460		晴
平成30年	第5回			 	480		晴

- 平成27年は雨で中止。馬飾りをはしごに乗せ神輿として本町アーケードを行進
- 平成28年は日曜日。献馬5頭で対応。

今まで	⇒	今後
献馬の数は、3～5頭	⇒	平日は4頭、休日は5頭
参加人数は、300～530	⇒	平均450人くらい



↑
長襦袢に化粧の大人達
↓



宝船
献馬の
引き手は

大人
子ども

・大人から子どもへ

- ・町内会と一宮市市民活動支援制度の投票の資金で運営
- ・大志連区民は、誰でも参加できる
- ・新中学1年生(連区全町内を献馬で回る)を連区民がお祝
- ・参加する子どもの似顔絵で献馬を飾る
- ・子ども達は、生きた馬の躍動を感じ、大きな声を出し汗をいっしょにかくなかで、大志への愛着を感じる

大志連区の歴史と文化を知る会



大志連区民がいっしょになって
けんば みこし

献馬・神輿にとまって

桃花祭を楽しもう!

午前全町内巡回
午後神幸行列参加

平成30年4月3日(火) 連区と連区関係者の方
連絡先090-1832-9029 (木村) ならどなたでも



135下馬町-海老

飾り馬具の例

⑩下馬町(現本町4丁目) 海老(えび)

桃花祭の当日、先ず飾馬具を馬の背に乗せることが大変だった。毎年慣れた馬は別として新しい馬には目隠しをして数人の手によらなければ出来ないことだった。昔の馬は運送馬、農耕馬が多かったので馬具の重量に耐えたが、今日の馬では馬具の重量に耐えることはできない。

下馬町の花老が、新調後これに耐える馬がなかったという話も残っている。(17頁)

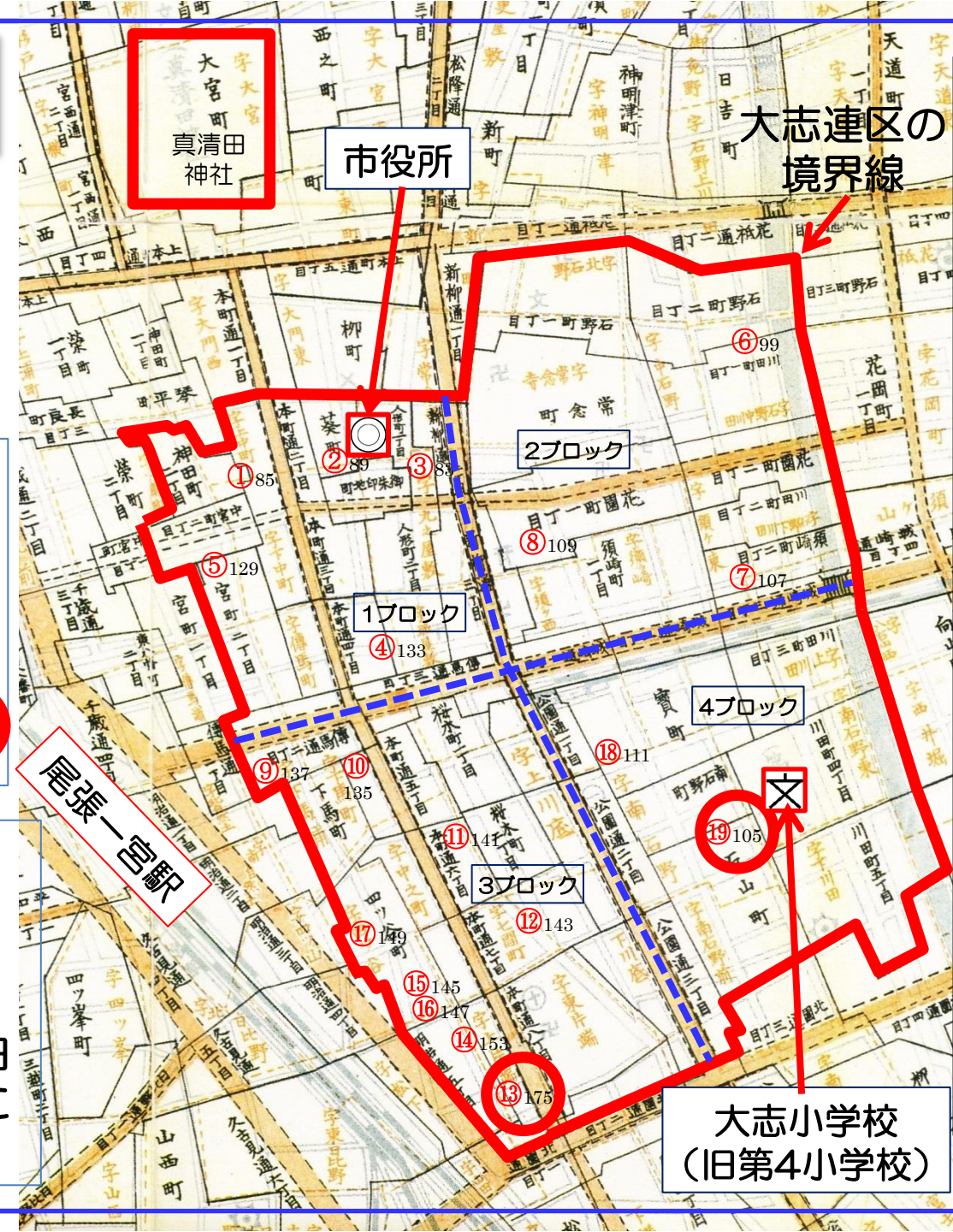
大正15年に海老と下馬標の2組あったものを海老1つに一宮の人形師 浅井猶吉により改造され費用は4800円(136頁)
(大正15年の4800円は
今のお金で540万円)

大志連区の飾り馬具

昭和初期の写真帳に19個載っていました ①～⑱

しかし69年前の太平洋戦争で多くは焼失し2個のみ残りました ⑬ ⑱

・石山町の金毛九尾狐
・朝日町の神武天皇
2個とも真清田神社の宝物館に収蔵中



- ①中町: 鯨 1ブロック
- ②葵町: 東照宮
- ③人形町: 御祓
- ④伝馬町: 雷神
- ⑤宮町: 加藤清正
- ⑥石野町: 御祓 2ブロック
- ⑦城崎町: 御祓
- ⑧須ヶ崎: 孔雀
- ⑨明治町: 干成瓢
- ⑩下馬町: 海老
- ⑪仲之町: 錨 3ブロック
- ⑫七間町: 福祿仙人
- ⑬朝日町: 神武天皇
- ⑭日の出町: 御祓
- ⑮東四ツ谷: 大矢二手四本
- ⑯東四ツ谷: 鎮西八郎
- ⑰西四ツ谷: 日本武尊
- ⑱公園通上ノ切: 鏡に雲 4ブロック
- ⑲石山町: 金毛九尾狐

昭和14年 (1939年) の地図